１．　環境学習コーディネート実施概要（Web 掲載）

依頼№	7	事例№	6	依頼者	愛知県立中川青和高等学校	実施場所	愛知県立中川青和高等学校
実施対象	高校３年生　１クラス　８名（学校設定科目「エコサイエンス」選択者）						
実施日時	令和 7 年 9 月 29 日（月）　13 時 30 分～15 時 20 分						
テーマ	再生可能エネルギーに関する科学技術について学ぶ						

●依頼内容

脱炭素社会・循環型社会を実現させるための発電技術を学ぶとともに、環境問題を自分ごととして捉えるための理科の授業の講師の紹介。

●講師：岩月 輝希 氏（(一社）環境創造研究センター）

岩月輝希氏は、温泉や自然界の水循環、地下建造物の環境影響などを専門とし、大学生や一般の人向けにエネルギー問題や自然環境との関わりなどの講義やサイエンスカフェを行ってきた実績がある。

●授業の内容

講義	講義は地球温暖化と再エネについて行われた。世界の人口増加に伴って CO2 排出量が増加し続けると、温暖化がますます進み、気温上昇だけでなく、農作物や魚がとれなくなったり、健康被害が増えたり、国や地域によっては水没してしまうなど、さまざまな影響や被害が生じることを学んだ。温暖化の進行を抑えるためには、水力、風力、太陽光、地熱といった、CO2 を出さない再エネへの転換が求められ、エネルギーの 80%以上を再エネで賄う国もある。日本は人口が多く、都市と地方のエネルギー需給がアンバランスという問題もあって再エネ比率は低く、今後蓄電池等の技術開発によって排出量を削減していく必要があることを学んだ。	50 分
休　憩		10 分
思考演習のためのゲーム	生徒は 4 人ずつのグループに分かれて、「プロセス・インフルエンス・ダイアグラム」という考え方に基づくゲームを行い、私たちの普段の生活行動が原因となって、地球温暖化をはじめ、地球環境にどのような影響を連続的に与え、どのような結果をもたらしてしまうのか、また、どうすればそれを防げるのかについて考えた。最後に、講師から、さまざまな影響の根源にある原因をさぐってそれを取り除けば一気に問題解決につながることを理解し、今後の自身の行動を考える際の手段にして身に付けてほしいと呼びかけられた。	50 分

●授業の様子

講義は、温暖化がこのまま進んでしまった場合、生徒たちが 80 歳を迎える 2060 年頃の気温や暮らしがどうなるのかという話や温暖化に関わるさまざまなクイズを交えて進められ、生徒たちはメモをとりながら静かに話を聞いていた。カードゲームでは、「太陽光パネルを増やす」、「食べ物を残す」、「電気自動車に乗り換える」といった私たちの行動が環境や暮らしにどのようなプラス、あるいはマイナスの影響を連鎖的にもたらすのかについて、友人同士で因果関係を確認しあいながら取り組んでいた。

地球温暖化の原因や影響、再エネについて学んだ。



カードゲームを通して温暖化の原因と影響、解決策について考えた。

